

<第56回調査>

2014年01月27日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2014年01月14日(火)13:00～2013年01月21日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は1693件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

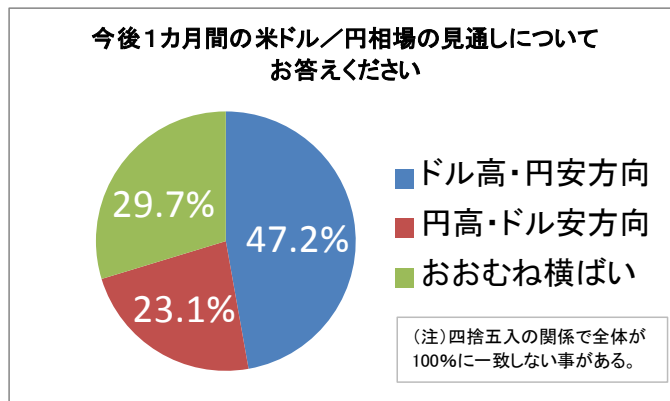
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第56回調査結果略報：円安期待が後退】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

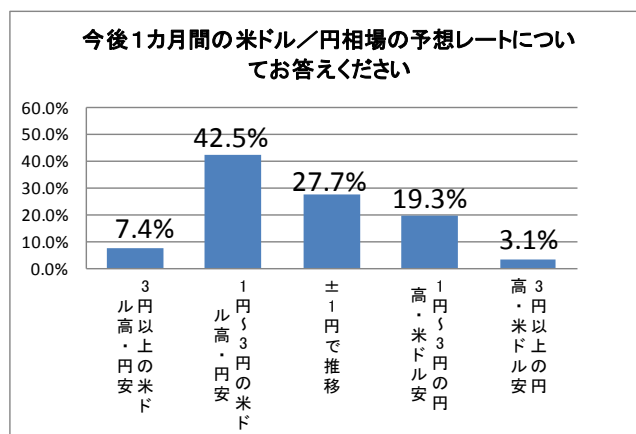
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が47.2%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は23.1%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+24.1%ポイントとなり、7カ月連続でプラスとなったものの、プラス幅は前回の+43.4%ポイントから縮小した。前回に比べ「ドル高・円安方向」が減少するとともに「円高・ドル安方向」が増加しており、FX投資家のドル高・円安見通しが揺らぎ始めているようだ。調査期間中の米ドル/円相場は102円台後半でスタートし、一時104円台後半まで持ち直したが、105円台は回復できなかった。こうした上値の重さが、FX投資家の見通しに対する自信を削ぎ始めているのだろう。

※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が42.5%と最も多く、「±1円で推移」が27.7%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は19.3%、「3円以上の米ドル高・円安」は7.4%、「3円以上の円高・米ドル安」は3.1%という結果になった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安寄りに傾いており、問1の結果と整合的と言える。ただ、ここでもFX投資家のドル高・円安見通しに陰りが見え始めた様子が窺える。前回の調査で51.3%に達していた「1～3円の米ドル高・円安」の割合がやや低下した一方で、「1円～3円の円高・ドル安」とした割合は前回の11.8%から増加している。強気姿勢がやや後退すると同時に、弱気の虫が顔を出し始めたようだ。

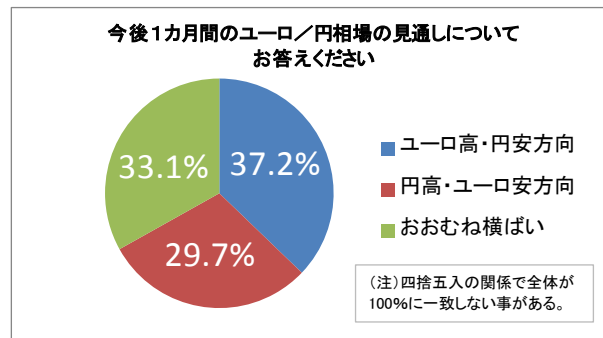


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

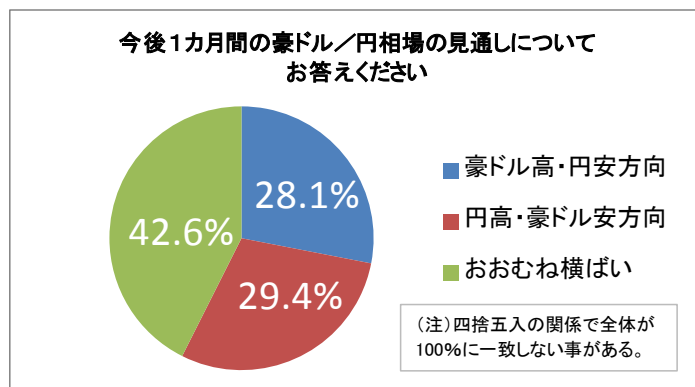
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が37.2%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が29.7%となった。この結果「ユーロ円予想DIは+7.5%ポイント」となり、前月(+27.5%ポイント)からプラス幅が縮小した。米ドル/円と同じ7カ月連続でプラスを維持したものの、DIは5カ月ぶりに1ケタ台にとどまった。調査期間中のユーロ/円相場は、140円台後半からスタートし143円目前まで上昇するも、140円台前半まで反落するなどやや弱含む展開ながらも明確な方向感を感じられなかった。こうした値動きの中で、FX投資家の相場観も定まらなかったと見られ、見通しはユーロ高、ユーロ安、横ばいとほぼ3等分される事になった。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が28.1%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は29.4%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は-1.3%ポイントと2カ月連続で弱気予想が優勢となったものの、マイナス幅はわずかながら縮小した。調査期間中の豪ドル/円相場は、93円台から断続的に下値を切り下げる展開となり、一時91円ちょうど付近まで下落。この間に発表された豪12月雇用統計が予想よりも弱い内容となった事で、追加利下げの思惑が再燃した格好となり、豪ドルの重石となった。ただ、売り一巡後は92円台を回復するなど底堅さも感じられる中、FX投資家の一部には強気転換とまではいかないものの、下げ止まりから反発を期待する向きが現れ始めているようにも思える。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

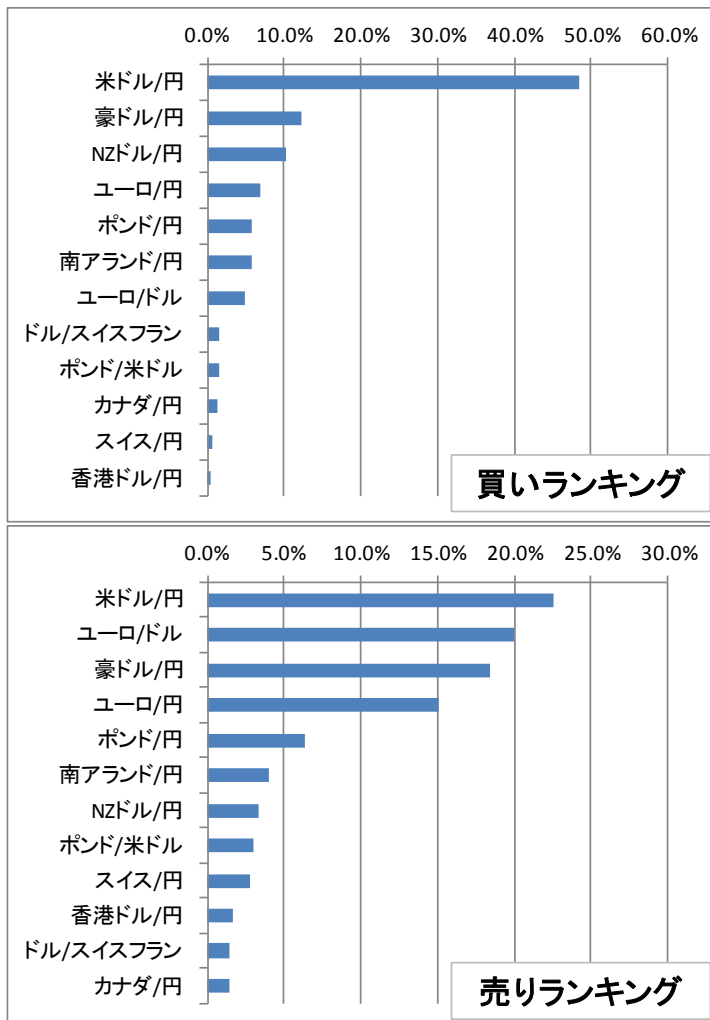


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

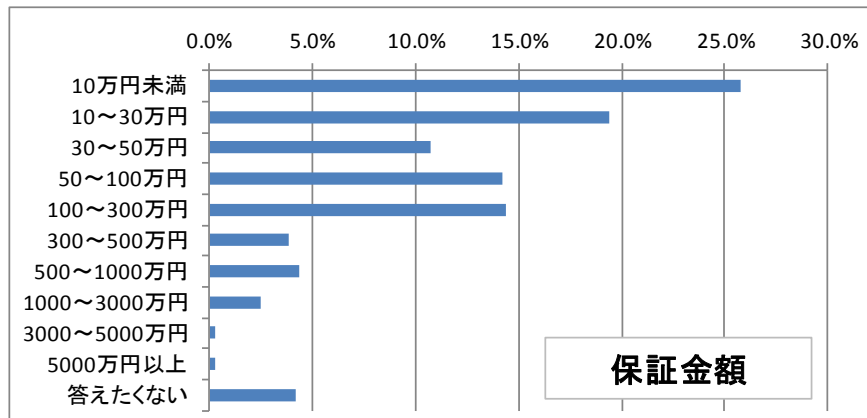
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(48.6%)、2位豪ドル/円(12.3%)、3位NZドル/円(10.2%)、4位ユーロ/円(6.9%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(22.5%)、2位ユーロ/ドル(20.0%)、3位豪ドル/円(18.4%)、4位ユーロ/円(15.1%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が2位以下に大差を付けて16カ月連続でトップの座をキープしている。また、2位の豪ドル/円の回答割合がさらに低下(前回: 14.1%)した一方で、NZドル/円が3位に順位を上げて回答割合も伸ばしている(前回: 6.9%)。両国の金融政策の方向性が、豪州は緩和含みの一方で、ニュージーランドがはっきりと引き締め方向に向いている事が人気ランキングに反映され始めたようだ。次回の調査では、NZドルが豪ドル/円を抜き去る可能性も出てきた。一方、「売り」で注目の通貨ペアについては、前回首位の豪ドル/円に代わって米ドル/円が浮上(前回3位)。その回答割合も前回の18.6%から増加している。問1で指摘した、FX投資家の間で米ドル/円相場に対して弱気の虫がざわつき始めたという見方を補強する調査結果と言えるだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

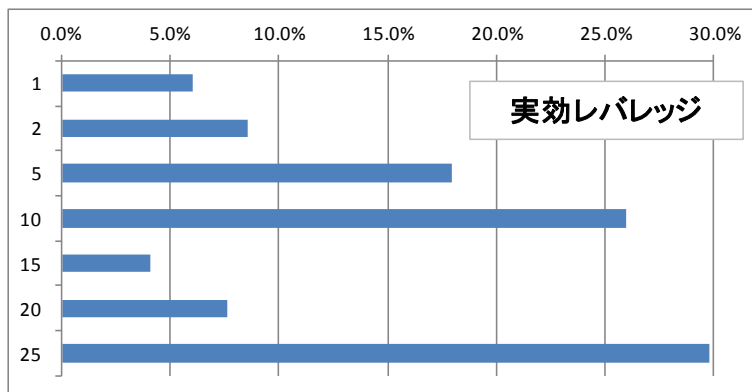
問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が25.8%と最も多く、以下「10～30万円(19.4%)」、「100～300万円(14.4%)」、「50～100万円(14.2%)」、「30～50万円(10.8%)」と続いた。小額の保証金で取引が可能というFXの特性を表しており、前回の調査から順位や回答割合に目立った変化は見られなかった。また、1年前に行った第44回調査の結果ともほぼ同じである。過去一年間にわたり、為替市場では円相場を筆頭にかなり大ぶりの変動を示したが、そうした中でもFX投資家の取引保証金額については大きな変化がなかった事になる。



問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「25倍」と答えた割合が29.8%と最も多く、「10倍」が26.0%、「5倍」が17.9%と続き、以下、「2倍」が8.5%、「20倍」が7.6%と続いた。質問内容を「主に活用するレバレッジ」という回答者の主観に基づくものから「実効レバレッジ」という客観的なものに変更して今回が3回目の調査となる。かつては25倍が50%前後を占めていたが、ここ3回の調査では30%弱となっている。このマイナーチェンジによって、FX投資家の取引実態により近い結果が得られるようになったものと考えている。

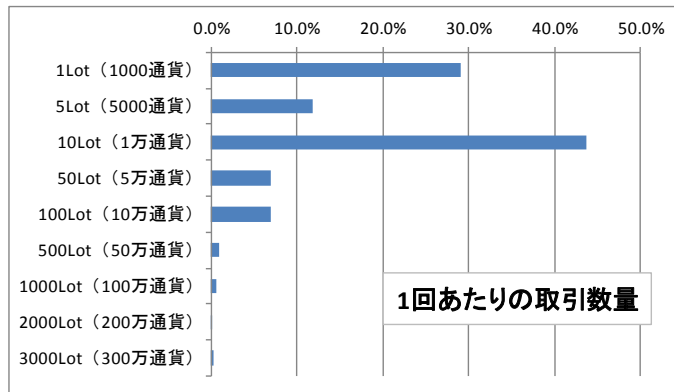


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

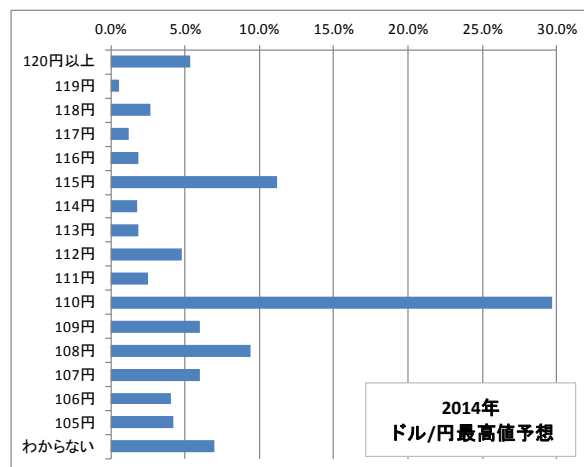
問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が43.7%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が29.0%、「5Lot(5000通貨)」が11.8%、「100Lot(10万通貨)」が7.0%、「50Lot(5万通貨)」が6.9%と続いた。この質問も、今回が3回目となるが、いずれの回も10Lotが4割を超えており、1Lotが3割前後という結果であった。10Lotは米ドル/円なら1万ドルであり、円貨にすれば約104万円ではない。近年の為替市場では、本邦FX投資家の存在感が増しており、その動向は海外勢も大いに注目するところだが、その実体はこうした小口投資家の集合体であるという点は非常に興味深い。



問9: 2014年を通して、ドル/円“最高値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ) また、下のコメント欄に、その理由をお書きください。

今月の特別質問項目として「2014年を通して、ドル/円“最高値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「110円」が29.7%の回答割合を集めた。次いで多かったのが「115円 (11.2%)」、続いて「108円(9.4%)」、「107円(6.0%)」、「109円(6.0%)」の順であり、「120円以上」との回答も5.4%あった。また、年初に付けた「105円」台が今年の最高値と予想する向きも4.3%存在した。なお、自由記述形式でその理由を尋ねたところ、「120円以上」とした向きからは、「(重要なチャートポイントである)2007年高値の124円台を目指す」との指摘があったほか、「110円」とした向きからは「円安基調は続くが、昨年ほどの勢いはない」との声が聞かれた。また、「107円」や「108円」とした向きからは、「消費増税後に景気が失速するため円安は限られる」との意見もあった。

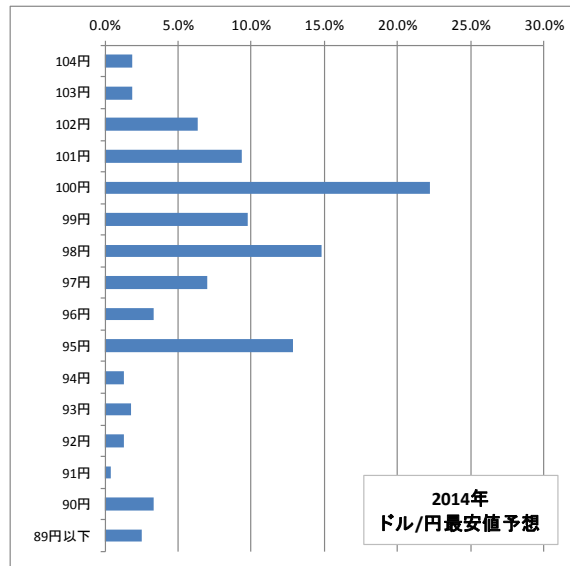


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

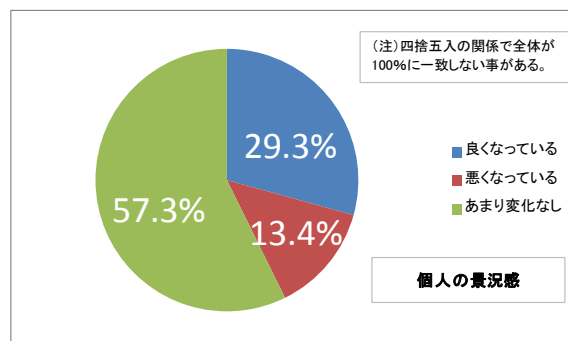
**問10: 2014年を通して、ドル/円“最安値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ)
また、下のコメント欄に、その理由をお書きください。**

今月の特別質問項目として「2014年を通して、ドル/円“最安値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ) また、下のコメント欄に、その理由をお書きください。」と尋ねたところ、「100円」が22.2%と最も多く、次いで「98円(14.8%)」、「95円(12.8%)」、「99円(9.7%)」、「101円(9.3%)」と続いた。問9の「最高値」に比べると、回答結果が広範囲にバラついたようにも思えるが、95円以上と答えた合算割合は89.2%という高水準に達しており、98円以上でも66.1%に上る。FX投資家の多くが「米ドル/円の下値は堅い」と考えている様子が窺える。また、自由記述形式でその理由を尋ねたところ、「100円」とした向きの回答を総合すると「消費増税のショックで一時的に円高に向かうが、円安基調は続くため節目はキープする」という見立てが多かった。「95円」とした向きからも「増税後の景気落ち込み」を指摘する声が多く聞かれた。



問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

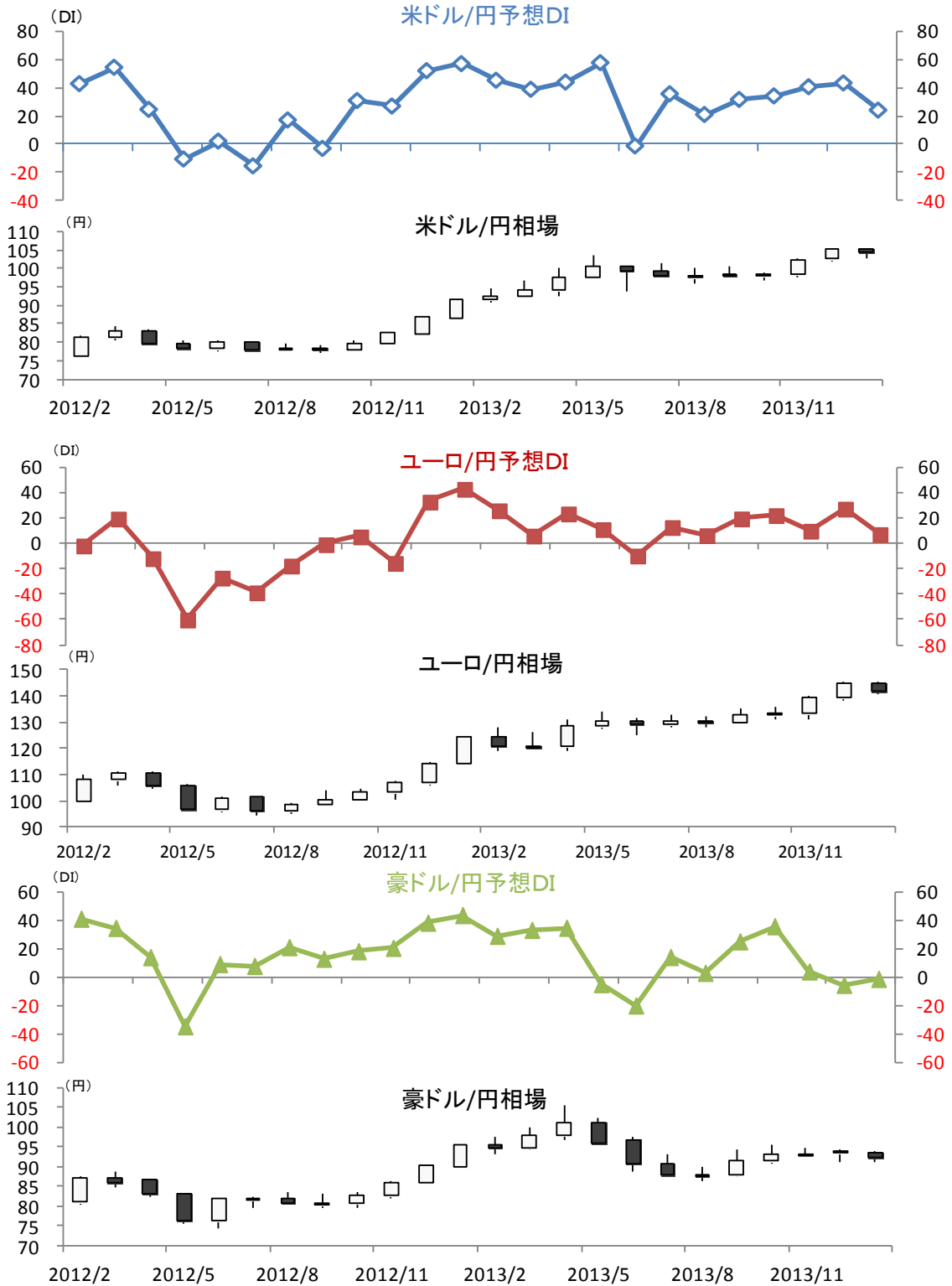
今月のもうひとつの特別質問項目として「あなた個人の『景況感』はいかがですか？」と尋ねたところ、「良くなっている」と答えた割合が29.3%、「悪くなっている」が13.4%、「あまり変化なし」が57.3%という結果となった。3カ月前に同じ質問をした際は「良くなっている」が23.7%、「悪くなっている」が18.9%、「あまり変化なし」が57.5%であった。「あまり変化なし」が過半数を占める点に変化はないが、「良くなっている」が増加して「悪くなっている」が減少した点には好印象を受ける。なお、「良くなっている」と答えた割合が「悪くなっている」を上回るのは昨年1月の第44回調査以降5回連続であり、今回の調査ではその傾向が一段と鮮明になった。なお、「良くなっている」とした今回の割合(29.3%)は、調査開始以来の最高値である。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第56回目となりました。調査開始から4年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2012年	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
	2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4
2月		60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
3月		55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
4月		61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
5月		70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
6月		37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
7月		52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
8月		43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
9月		49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
10月		54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
11月		53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
12月		59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com